



大切な人と人生を楽しむ生き方・暮らし方・働き方 キャリアを可視化し、デザインをする

長野県若者ライフデザイン希望実現事業

横山さん

NPO法人MEGURU 代表理事／
合同会社en.to 代表社員
静岡県出身。長野県塩尻市在住。
大学卒業後、大手人材会社に入社。2019年からは人材会社と兼業する形で地域おこし協力隊に着任し、塩尻商工会議所の地域人材コーディネーターに着任。2020年には並行して「地域の人事部」をテーマとしたNPO法人MEGURUを設立。2023年からは仲間とともに滞在型交流拠点en.toとして地域の担い手が生まれる拠点づくりを開始。



今回は事前に作成いただいた資料を使いながら、生活(結婚や子育て)と仕事や地域とのかかわり方についてお話を伺いました。

- ・過去・現在・未来を3～4のステージに分けたもの(資料1)
- ・自分を取り巻く役割から8個選んだもの(資料2)
- ・役割毎の人生のそれぞれの場面でどの程度重要で、どの程度エネルギーを使っていたか(使いたいか)を整理したもの(資料3)
- ・過去・現在・未来をマッピングしたもの(絵に落とし込んだもの)(資料4)

○横山さん、今日はお時間ありがとうございます。

●よろしくお願ひします。

○まず、初めに過去・現在・未来を3～4のステージに分けていただきました。24歳27歳30歳と切り取っていただきましたが切り口としてはどんな切り口なのでしょう(資料1)

●自分の周囲、コミュニティとか、取り巻く人達が、だいが変わったなという感覚があったり、自分が働くとか家族に対する捉え方が変わってきているのがこの三段階かなと思って分けました。

○コミュニティー、働き方、暮らし方、家族の在り方が変わってきているのがこの24歳27歳30歳の3つなんですね

●そうですね。考え方も変わってきているという感じですね。

資料1

1-a.横山さんのキャリア切り出しポイント！

	年齢	タイトル	ライフイベント・生活環境・状況(仕事・家庭・地域)
A	24	熱血仕事人生	・人材サービス会社に入社しとにかく仕事 ・プライベートは妻といろんなところに旅行 ・名古屋
B	27	自分の生き方見直す ローカルへ足を踏み入れる	・仕事はこのままでいいのだろうかと悩む ・「いつか長野へ」の妻と結婚・真剣に将来考える ・塩尻市の地域おこし協力隊に2拠点&複業 ・子どもが生まれる
C	30	自分の人生を生き始める	・塩尻での活動が面白くなり始める ・第二子が生まれる ・地域での暮らしも楽しくなる・豊かさを感じる ・MEGURU設立→独立





○24歳「熱血仕事人生」、27歳「自分の生き方を見直す、ローカルへ足を踏み入れる」、30歳「自分の人生を歩み始める」タイトルだけ見ると壮絶ですけど、横山さん、まだ32歳なんですよ？(笑)

●いやーいろいろあったなーこの6年、濃い(笑)

○24歳27歳30歳のそれぞれの時期で、自分を取り巻く役割は何があるだろうということで8個だしてもらいましたが(資料2)、気づきとか、出しやすかった・イメージしやすかったということやその逆のようなものはありましたか？

●出しやすい・出しにくいということではないのですが、自分にどんな顔があるかなっていうのを思い浮かべた時にコミュニティによって、自分の立ち位置が変わるといいますか。
うまく言えないのですが、カメレオンではないですけど、場所場所でわきまえている・振舞えているなって。

家庭ではもちろん父親という側面もありますし「MEGURU※1」では代表というのものもあるし、企業さんを支援する時で言えば、経営者を支援するという立ち位置でもあるし、「スナバ※2」周辺では仲間として一緒に地域作ってるなみたいな感覚もあるし、「JC※3」に所属している自分、あとは地域に住んでいる自分、結構いろんな役割や顔があるなって改めて気が付きました。

資料2

1-b.横山さんのもっている役割

役割を8個出してみましょう。

父	夫	メンター
代表	自分	仲間 同志
人事	JC役員	地域の人

※1 MEGURU

横山さんを代表とする「地域の人事部」をテーマとしたNPO法人

※2 スナバ

塩尻市にある人創り、事業創り、場創りの三つの「創る」実現するための「3つの機能」をもったシビック・イノベーション拠点

※3 JC

Junior Chamber (青年会議所)の略。『明るい豊かな社会』を実現することを目的とし活動をしている。

○いろんな顔というのは面白いですよ。

MEGURUというフラットな組織の中にいる自分と、JCのようにどちらかというと脈々と続いているしっかりつながっている組織の中にいる自分をブレンドしながら働いていて、それもやりながら父であり夫であり、地域の人であるみたいな顔も持っている。

ただお近くに住んでいる人はあれですよ？

横山さん何している人とか知らないんじゃないですか？(笑)

●わかんないと思います(笑)。一言で言いづらい仕事をしているので、説明が難しい。

○おうちはいつ建てたんでしたっけ？

●家を建てたのは1年前ですが、家のある今の地区にはもう4年前ぐらいから借家に住んでいたんで、その地区の人とはもともとお互いに知っていて、1年前に古民家を改修して家を建てようってなって。

○27歳ぐらいに地域おこし協力隊で来た時から住んでるんですか？

●そうです。





○古民家はどうやって見つけたんですか？

●前の借家じゃなくて、塩尻でいいんじゃないかなっていう腹決めと共に家を建てようという風になって。もともと古民家にしようと思っていたわけではなくて、家を建てたいねってところだけでした。

そしたら私の静岡の両親も一緒に住むという話になって、じゃあどこに建てるかという話になり、塩尻の中でもどこにしようか探していたんだけどピンと来るところがなくて…。そうこうしていたら、地域の人が「今度ここに空き家が出るよ。」って教えてくれて。

もともと夫婦で、毎日通ってた場所で、こういう古民家良いよねって話していたこともあったから「マジですか？」ということで。ここだったら新築じゃなくてリノベーションでやっても良いかもねってなったんです。

その場所なら二世帯も大丈夫だし、色んな地域を見て、結局「その地域に誰が居るか」が大事だなと思ったんです。全く知らない塩尻の中でも知らない場所に行ってお隣さんとか地域の人と合わないとなったら嫌だなと。

今住んでいるところってみんなめっちゃいい人で、いい関係性が築けてるしそれが一番なんじゃない？みたいな。農家の方が多くてめっちゃ野菜くれるし(笑)

野菜くれるからじゃないですけどそれぐらいに外から来た人でもウェルカムな感じの地域なのでごくポジティブというか安心できるということを感じて、ここで今後子供を育てていくということを考えると、周りの人が良い人たちというのはすごい大事なことだなと感じたんです。

家も地域のつながりがあったから見つかったわけだし、人のつながりってのが大事だなんてあらためて思いました。

○地域のつながりというのは横山さんにとって欠かせないんですね。

●そうですね。

○では、地域の人としての横山さんも含めてそれぞれの8個の役割(資料2)を深掘りして見ていきたいと思えます。

自分にとっての重要度とかけている時間・エネルギー(資料3)を書き出してもらいましたが横山さんの中でバランスがいいなという時期とすごくアンバランスだったなという時期はありますか？

例えば、自分にとって大事なことにはたくさん時間を使うけど、大事だとわかっていながら時間が使えていないとかそういうイメージです。

●うーん基本バランス悪いすね(笑)。そういう意味だとバランスはまだ模索中かもしれないですね。

資料3

2.ピックアップした3つの地点であなたの立場とその立場の重要度合い、かけているエネルギーや時間について整理してみましょう。
・立場が仕事・社会(地域・社会活動)・家庭(家族はじめプライベート)の関連していれば○をつけましょう
・未来については理想を書いてみましょう。
・重要度合いやかけているエネルギーは感覚的なもので必ずしも上限が100%でなくても超えていても、足りなくても大丈夫です。

No	仕事	社会	家庭	役割名	自身にとっての重要度合い (%) A ⇒ B ⇒ C	かけている時間・エネルギー (%) A ⇒ B ⇒ C	補足 (家族の年齢、仕事のポジション、地域の状況、自身が力を入れていることなど…)
1				父	A	B	子どもが5月で3人になります
2				夫	B	C	妻31歳、お互いに色々活動している 子育ては最近妻に比重が大きい
3				メンター	B	C	学生やこれから何かやりたい人たちのメンターになりたい
4				代表	A	A	MEGURUやen.toの代表
5				仲間・同志	B	B	スナバ、en.to、商店街や商工会議所、様々な団体に想いを共にする仲間がいる
6				人事	B	C	企業に対しては人事的な立場でサポートしている
7				JC役員	B	A	青年会議所は自分の中でおきな活動に ただ、これかた組織自体をどうしていくか悩む
8				地域の人	C	C	もっと住んでいる洗馬のことをいざればやりたい





○とすると横山さんが時間をかけるときというのは何かに惹かれていた時だったりするんですか？

●最近思うのが自分自身がいろんな関係性の中で生きている、いろんなコミュニティの間(はざま)にいる人間なんだなって思っています。
この「スナバ」もそうだし、地元の商工会議所とかJCとか商店街、いろんなコミュニティの中に自分がそれぞれいる。

あえて、線を引くような形で隔てないでやれるというのが自分の強みかもと思っています。

家族とかも含めてですけど、そういうコミュニティが広がったり、いろんな人達とつながるということをして自分ができるということが強みでもあり、自分自身がそういうことが好きだし。

ただ、だからこそいろんなところで関わっちゃうから、仕事、家庭、その他の色々に対して全部100%でできないじゃないですか。

そういう意味だと、MEGURUとかスナバ、JCに今かけている時間が多いから、家庭の時間が少し減ってきてしまっていて。大事なんだよなって思い始めている今日この頃です。

でも 子どもの時間は意識的にある程度取ろうと思っているところだけど、夫っていうところは無いわけじゃないけど少ない。

ただ今のこのバランスは、自分や家族が「健やか」な状態かと言ったらもうちょっと何かありそうだなと思います。

長い目を見てこの「健やか」な状態をつくるためにも、今はいろんな仕事やコミュニティに関しても頑張らなきゃいけない時期だなと。

○自分自身が作ってきたものを渡していき、自分は自分で家庭も含めてコミュニティをもうちょっとより良くする、そんなフェーズにいるんですかね。

●そうですね。そういう意味ではちょっと過渡期というか、タイミングですかね。

○関わり方のエネルギーとしては、家族にも向けていきたいと思っているものの、いろんなコミュニティと関わっていて、相手にも時間があるし、そこに合わせるためにどうしても時間がかかってしまう。

●そうですね。仕事やコミュニティに関してもせっかくやるんだったらちゃんとやりたいし、JCの活動もやるのであれば面白いと思えることを一生懸命やりたいし商店街との活動も関わっているんですけど、せっかくならない場所にしたいなと。

そういうふうに関わっていくと、その場面にいたいという瞬間はたくさんあります。いろいろやっていると中核的な立ち位置も増えていき、しかもそれが面白いし。。

面白いんだけどずっと自分がやり続けているのはそのコミュニティにとってサステナブルじゃない(持続性がない)し時間的にも難しい。

やっぱり、家庭に負担かかっている部分って、少なからずあって、そこは悩みですね。自分じゃなくてもできるものはないか？と考えてもうちょっと周囲の成長に力を入れていくフェーズに来ているというか。

○自分自身が作ってきたものを渡していき、自分は自分で家庭も含めてコミュニティをもうちょっとより良くする、そんなフェーズにいるんですかね。

●そうですね。そういう意味ではちょっと過渡期というか、タイミングですかね。





○大変なんですね(笑)

- 大変なんですよ(笑)。いや楽しいんですけどね、楽しいし、ワクワクするし、これめっちゃできたらいいなということがたくさんあって、しかもこの場所だったらできるなどが、自分が一人でってわけじゃなくて誰かと一緒にできたらいいよねって感じになって。

でもこれがサステナブルかっていうどうなんだろうなって。
一人でやりきるというこの状況はずっと続けられないっていうのはわかっている。

だから5月に3人目が産まれるっていうのがそういうメッセージかもしれないですね。
家族が増えるよってことは、今以上に家庭に振り向けたいし、振り向けなきゃいけないし、このままじゃダメだよってメッセージなんだと思います。

○一方で今の役割をポイとするわけにはいけなく、上手にシフトしていくという時期なのかもしれないですね？

- そういう感じかもしれないです。

○ありがとうございました。タイミングや役割からエネルギーのかけ方を大きく振り返ってもらい、24歳27歳30歳をマッピング(絵)にしてもらいましたが(資料4)、全体や、24歳27歳30歳の1つ1つのタイミングを見て気づきとか、こうだったなと改めて思った事はありますか？

- そうですね、1個目の24歳の時(資料4-A)はコミュニティがすごい限られていた。
仕事仲間と家族と友人ぐらいしかなかったのかなと。

もちろんそれはそれで今振り返っても楽しかったのですが、自分が信頼できたり、関係性のある人たちの幅がすごく狭かったっていう気がします。

○この時は関係性を広めるという意識はあんまりなかったですか？深めるというか仲間と楽しくやってみたいな感じですかね？

- そうですね。あんまりそこに意識はなかったのかもしれないです。

○それがどうしてこんなにコミュニティを広げたい人に(笑)？

- 前の会社の研修で地域活性化みたいなことで鳥取県の智頭というところに行く機会があって、そこに家と会社の他に地域というところに3つ目のサードコミュニティを大切にしている人たちがいて。

それは義務的なコミュニティというよりは「この地域を面白くしてこーぜ」みたいな人たちで。
その時に、仲間がいるっていうのはすごく良くなって思ったんですよ。

当時、自分は名古屋に住んでいたんですけど、名古屋を軸に何かを一緒にやっている人達はいるかな？と思うと出会えなくて。

そこから名古屋の大名古屋大学っていう市民大学に関わり始めて面白くなってきたんですけど、自分には名古屋は大きすぎて自分ごとにしづらくてもうちょっとローカルでやりたいなって思い始めたんです。

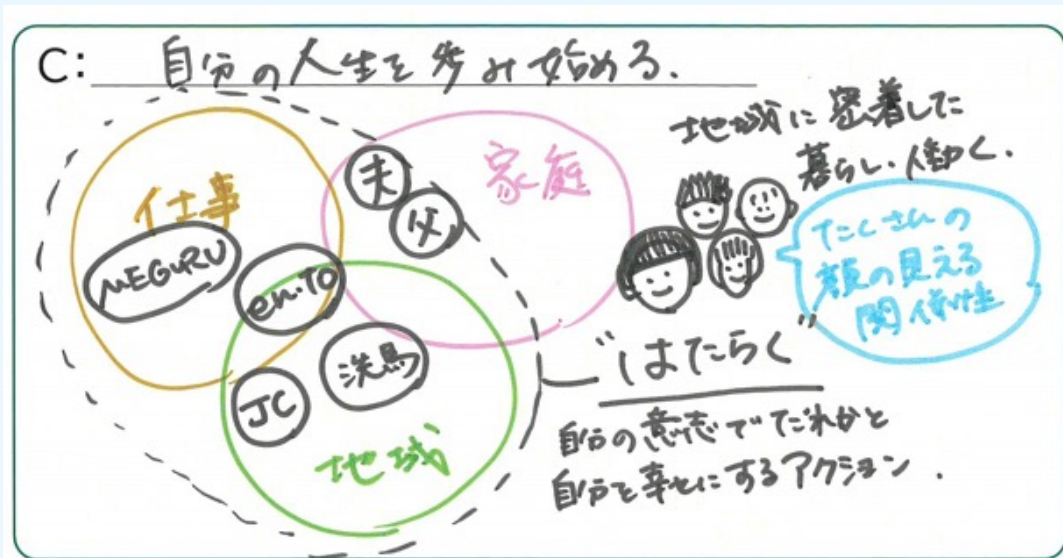
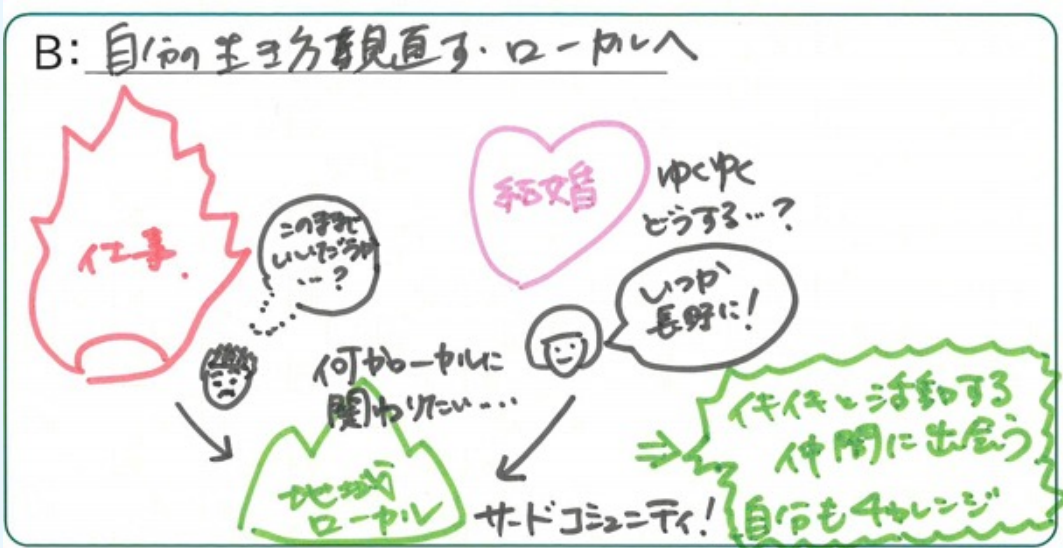
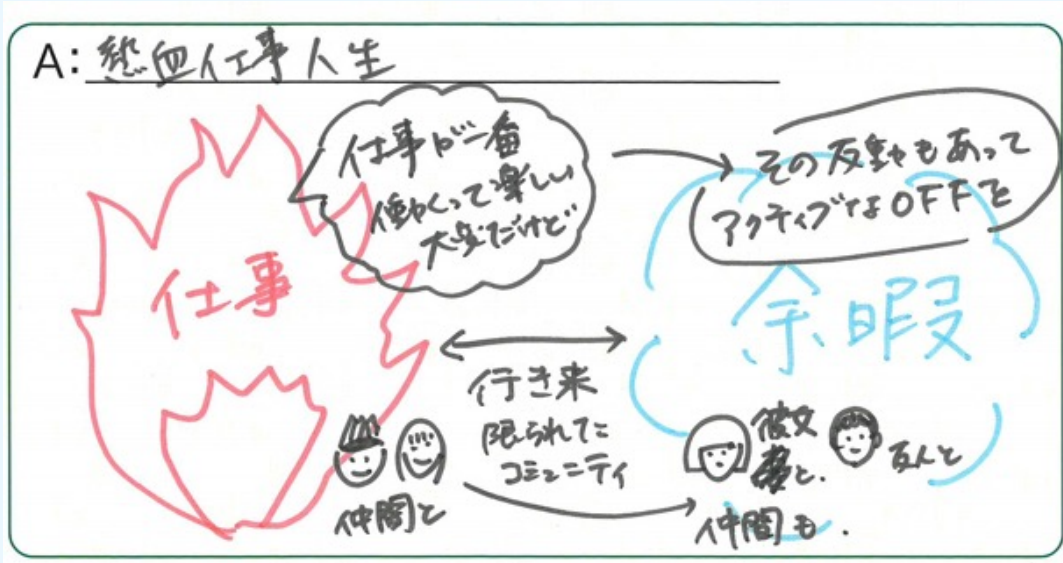
その時に今の妻と結婚するタイミングでもあって、いつか実家のある長野に帰りたくなってことを言っていたんだけど、「長野かー、友人ひとりもいねえなあ…そうなんだあ」という感じで。
でも自分の実家の静岡にどうしても戻りたいわけでもなかったし、妻が長野に帰りたいたいというなら別にいいかなと。

ただ妻もいつかなんですよ、いつかなのですぐ帰るとか、もうちょっと年齢重ねてからとか数10年先ぐらい見越して多分言ったと思うんですよ。





資料4





- なのでまずは友達作るかぐらいの感覚で長野のイベント行ったりとか、たまたま塩尻のスナバができるって地域おこし協力隊の求人に出会って、これめっちゃ面白そうと思って応募したんです。

建設中のスナバに来て、今も一緒に関わっている仲間と出会ってああ面白そうだなってそこからですね。

ここにいる人たちは自分が作りたいと思ったコミュニティを作ろうとしているところになんか面白さを感じて、そしたら別の地域おこしプログラムを行政で作ってくれたのでじゃあ一旦やってみるかってなりました。

○前職が副業を認めていたということも後押しになりましたか？

- そうですね。塩尻の地域おこし協力隊の活動時間は週半分ぐらいなのでそれ以外の時間をどう使うかは任せられているので自分の仕事をやったりとかできましたね。

○奥さんの実家に近いところに動いて来ることができたし、偶然ではあるけども色々な人に出会うことができた転機でしたね。

- むしろ早すぎて、「もう行くの？私まだ行けないよ？」みたいな(笑)ただそこは波に乗ってちょうどそれでまず僕が来て半年ぐらいで子供が生まれたんですよ。そしたら「子供がいるんだったら、もうこっち来ちゃった方がいいね。」って言って。

最初は僕が名古屋から通いでこっちに泊まるだけだったんですけど、今の地域に家族ごと引っ越したという感じです。

○(マッピングを見て)30歳という時期になるとあり方がまた変わってきていますね。24歳や27歳の時は「仕事」のところに火がついてましたけど、火ではない表現になっていますね。(資料4-C)

- どちらかという自然体になった。今までは頑張るぞみたいな感じで頑張っていた感じです。

今ももちろん頑張っているんですけど働くってこと自体が仕事とか、地域とか、お金を稼いでいたってところから、『働くを自分の意志でだれかと自分を幸せにするアクション(資料4-C)』と書いているんですけど、結果だけではなくアクションそのものの過程も含まれるんですね。

自分の中では働くということは誰かと関わる中で、その人も自分も幸せになるっていうのが自分の働くということなので、仕事と地域とかプライベートの境目はなくなってきたし、前向きに自分がアクションしてるっていう領域は、自分の働くっていうのと、地域にすごく密着してやれていて、関係性が生まれて楽しいなと思って、自分らしいなっていうか自分の人生を歩み始めたんだと思います。

自然体にいられるなって感覚です。

○「役割」というようにバンバン切るというよりはなんとなくブレンドされる、この役割をやるからこっちができるみたいな感じなんですかね？

- そうですね。仕事でできた関係性がプライベートになったり、地域でできた関係性が仕事になったり、ここにはコミュニティも混ざっているし、そういうのが自分にとっては大切。

○「色々なことも考えなきゃいけないな」というのも気づきなのかな」とおっしゃっていましたが、色々な立場があるということに気づくと、いろいろと関わりあってつながってくる感じですね。

- そうですね。





○ここまで過去と今に至るまでを振り返ってもらいましたが、もうちょっとだけ先のことをプラスアルファで考えてもらったと思うんですが、今後どんな展望がありますか？

●いやちょっとよく分かんないな(笑)でも、「健やか」に生きたい働きたい。

それは自分のミッションというか目指したいものでもあるし、MEGURUとしてやりたいこととも近いんですけど、この地域で生きるとか働くっていうこと自体がすごくサステナブルに自分らしくあってほしい。それを自分自身が、体現しているしそういう価値観になっていってほしいなっていうのがありますね。

そういう意味では自分がこの役割とか、このコミュニティだけというよりは、多様なコミュニティが繋がっていく。そこで顔の見える関係性がたくさん生まれていく。それが続くと地域に対する心理的な安全性や安心感、愛着っていうものが生まれてくる。

そうすると町のことが自分事になって、自分がこの町の主体者であるっていう感覚を持って、一人一人が地域において自分が主役だし、自分の人生をこの地域で、主体者として生きていくっていうのが軸になっていくんじゃないかな。

そういう人が増えてくると町自体が持続的にあり続けることができるんじゃないかなと思った時に、「健やかさ」っていうのは自分たちのキーワードにしている気がします。

地元の人企業もコミュニティがどんどん混ざったり、いろんな関係性がちゃんと紡がれていく。大事にしたい人のつながりがここにあり、繋がりがあつこの地域を自分達でもっといい場所にしていこうよって。そういう人たちが増えて、そんな仲間がもっとたくさんできていったらいいなって思います。

○お話を聞いていると「自分たちで」、「健やか・健全」「サステナブル(持続的)」。この3つの言葉が耳に残っているんですけどそのあたりは大切にしている部分ですかね。

●そうですね、多分僕が生きてきた30年ぐらい、経済とかそんなに上向きじゃなかったじゃないですか。今の資本主義にそんなに強く違和感はないんですけど、もっと昔って自分達で自分達の町のことをやっただと思うんですよ。ただこの数十年は公共というか大きな集まりに任せてやって、それがだんだん限界に来ているんじゃないかなって僕は思うんですよ。

そういう意味では公助じゃないですけども、自助共助の共助の部分でやっぱり自分たちでやってかなきゃいけないねっていうのは思います。

というか本来自分たちの町のことは自分達でやるべきだっていうものは凄く自分の中で思うところです。その中において僕はそこ繋がりを生む役割があるし、大事にしたい人達がいるから、自分の地域が大事になるという人の関係性とかつながりを生んでいきたいなって思います。





○今度は家族に対してという視点でみるとこの数年の展望はありますか？

●家族という視点でも、色々な多様な繋がりの中で育ってほしいよねというのが子育ての中で、私も妻も大事にしていることです。

単純に関係性を作るってことじゃなくて、今自分達が食べるもの、消費するもの、使うものも、顔の見える関係性の人達から買おうとか、そういうのも繋がるということで大事にしています。

例えば農家さんから直接野菜を買う、あの人が毎朝4時に行ってこんな思いで作ってる、これを食べるということはすごく幸せだし、その人との関係性も繋がれるし、そういう消費の仕方ってすごく大事だと思います。

家庭のあり方や暮らし方というのは、自分の家族もその自分達の家族だけじゃなくて、周りの人たちと持ちつ持たれつの中で生きてるんだよっていうのを大切にしたい。
僕が作る繋がり、それがそのまた妻や子供達と繋がるってことが嬉しいし大切。

妻が作るコミュニティで僕や子どもが繋がるということも同じ。
子どももきっと僕たちに繋がりを作ってくれるしそれを大切にしたい。

家族っていう単位ではあるけど、色々な人達と繋がった中で、自分達の暮らしや生活が成り立っていったらいいなみたいなのはよく妻とは話してます。
家族という安全基地をコアにしつつもみんなと繋がっていけるというのが私の理想の形ですね。

○ありがとうございます。今日は3つプラスアルファでマッピングしてもらいましたが改めてマッピングしてみて得た気づきはありましたか？

●あらためて、今、自分の広がりや大事にしたいことをさせてもらっている気がするんですけど自分は繋がりを大事にしたいということ、そこから全てが始まっていくという風に思ってるのかなっていう事に気づきました。
繋がりが大事だなとか、めっちゃ当たり前なことなんですけど。大切な気づきだったと思います。

○当たり前なのかもしれないけどそれを体現してるところが素敵です。
それではインタビューは以上になります。ありがとうございました。

●ありがとうございました。

